



「愛知県の木」 ハナノキ



ハナノキとは 学名：Acer pycnanthum

ハナノキはカエデ科カエデ属の雌雄異株（オスとメスがある）の落葉高木で、最大で樹高30m、胸高直径1mに達します。日本固有の植物で、長野県・岐阜県・愛知県のみ分布し、低山地の沢沿いのくぼ地や湿性地で、絶えず水が湧き出るような特殊な環境で生育します。

ハナノキは生きた化石

ハナノキの仲間は数千年前に出現したといわれ、その化石がグリーンランド・北アメリカ西岸、ヨーロッパなどの世界各地から出土していることから、かつては北半球に広く分布していたと推測されていますが、現在ではほとんどの地域で絶滅し、日本産のハナノキと、北アメリカ東岸産のアメリカハナノキの2種のみが生き残っています。



豊田市旭地区のハナノキ

豊田市旭八幡地区のハナノキは旭高原元気村地内にあり、今のところ成木4株・幼木3株の計7株が確認されています。（樹齢は成木で50～70年程度。）愛知県のハナノキの自生地としては茶臼山の山麓にある豊根村・伊良神社が知られ、大正15年に国指定の天然記念物となっています。昭和41年にはハナノキは愛知県より「県の木」に選定されました。



大きく成長した木や、光がよくあたる枝ほど丸い形になるよ

豊田市旭高原のハナノキの見ごろ



花の見ごろ … 4月下旬～5月上旬



紅葉の見ごろ … 11月上旬～

ハナノキを支えるもの — 湿地

野生のハナノキは、水が地面から湧き出していたり、川の水があふれて氾濫するような、湿った場所に生育しています。ハナノキが分布する地域には、湧き水に富む特異な低湿地が点々と存在しています。このような湿地は、数百万年にわたる長い期間、高密度でこの地域に分布し続けてきました。そのことがハナノキのような、低湿地の環境に適応した種を呼び込むことになったのです。



君たち男の子？ 女の子？

ハナノキは、雄花だけをつける雄木（おぎ）と雌花だけをつける雌木（めぎ）のどちらかにわかれています。このような植物を「雌雄異株植物（しゆういしゅしょくぶつ）」といいます。雌雄異株植物には、ほかにイチヨウ、キウイなどがあります。

ハナノキ♂♀Q&A

Q そもそもなぜ雄木と雌木に分かれているの？

A 必ず他の個体と受精し、繁殖の効率をあげるためです。でも、近くに自分と異なる性の個体がないと子孫を残せないというマイナス面もあります。

Q 雄木と雌木はどうやって見分けるの？

A 花が咲くまで見分けることができません。しかし、雌木は葉を展開させる時期が雄木よりも遅い傾向にあるといわれています。これは種子の生産にエネルギーを使うためだと考えられています。

Q 雄木と雌木はどちらが多いの？

A 花が咲く個体の数を比べると、雄木のほうが少し多いです。でも、雄木のほうが木が小さいときから咲き始めるので、実際には雄木と雌木はほぼ1対1の割合であると推測されています。雄木が雌木に比べて小さいサイズで咲き始めるのは、種子をつくる必要がないので、雌よりも少ないエネルギーで開花できるためといわれています。



雄花



雌花

旭高原ハナノキ倶楽部の活動とメンバー募集のお知らせ



シードトラップ設置作業の様子

活動内容

1. ハナノキ調査（シードトラップ設置 実生苗調査）
2. 植物調査
3. 湿原回復作業

メンバー募集

旭高原の湿原保護を目的として、湿原をあるべき姿に戻すためのボランティア活動に参加しませんか。詳しくは、2階受付にてお気軽にお問い合わせください。